

知り合いの人妻 vol.7

# 午後の新妻



烏賊松



先日  
職場の後輩山本 (27) が  
結婚した

山本とは普段から  
遊び仲間だったと  
いう事もあり

彼女連れれの山本と  
一緒に遊んでいる内に  
彼女の方にもすっかり  
仲が良くなっていた

ただこの彼女…

かなりマンマンと書かれて  
おどろおどろしいのは



おとなしい性格の  
山本にはちよっと  
荷が重いんじゃないか  
という心配もしていた



まあ円満に  
新婚生活を  
送ってくれて  
いれば



そんな心配も  
余計なお世話  
なんだろうが…



俺は悪友に誘われるがまま合コンに出かけた

山本たちの結婚式からしばらく後



あれ〜!?



舞ちゃん  
こんなトコで  
何やってんだよ

コンパに来てる  
なんて  
山本は知らない  
んだろ?



● 舞ちゃん、さあ、早くさよならを告げよう

あー



マズインじゃ  
ねーの

.....

それでは

今日のこの  
スバラシキ出会い  
を祝して――



カンパニー!!



結婚してから  
少しは落ち着いた  
かと思っていた舞は



恥も外聞も無く  
乱れまくっていた



いざ飲み始めると  
以前と何と変わらな  
い



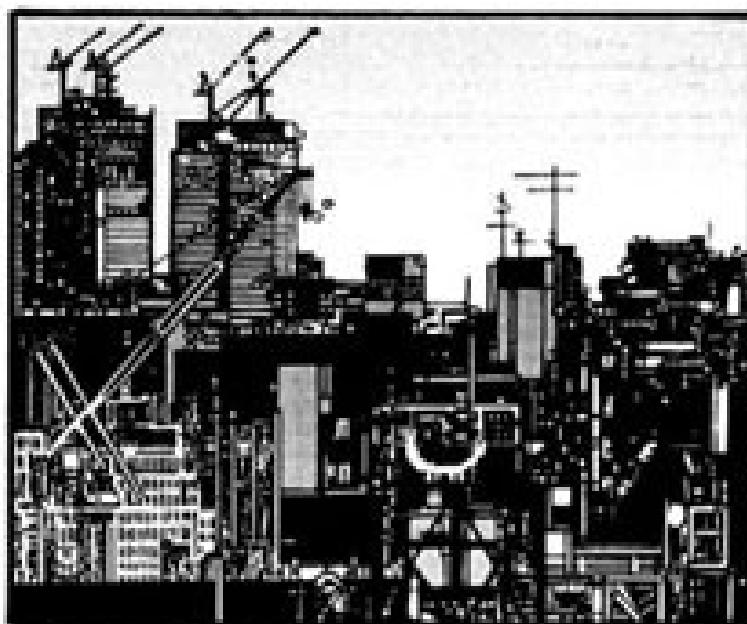
なあ  
福原

あのコ  
スゲーノリが  
いいよな

ぜってー  
やれそうだから

オレが  
いただいちゃおう  
かな〜?









結婚したばかりで  
女房がこんなに  
遊び回ってるんじゃ

山本のヤツ  
この先苦労が  
たえないだろう  
なあ...



おーい  
舞ちゃん

コンビニで  
Tシャツ買って  
きたから  
ソレに着替えな



アホヤン!



コラ!  
ふざけてないで  
早く酔い覚まし  
しろよ!

気分が良く  
なったら家まで  
送ってって  
やるから...



福さん  
やさしいね



お礼に  
やらせて  
あげようか？

お互い旦那や  
奥さんには  
絶対ナイズヨロシ  
コトカ●

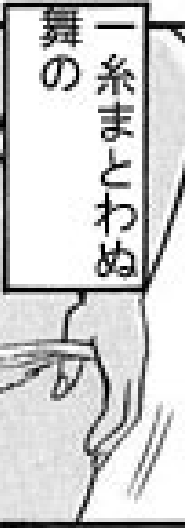


あのな！  
そんな事したら  
明日山本に会わ  
せる顔が…



ん…

そう言いかけて  
俺は思わず  
息を呑んだ



一糸まとわぬ  
舞の



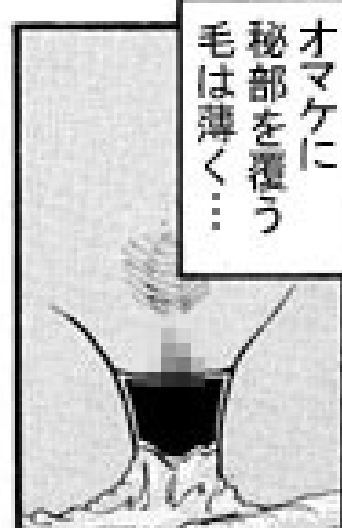
まだ十代でも  
通りそうな  
少女体形

そして  
ポリユームの  
ある胸に



小さい乳首

オマケに  
秘部を覆う  
毛は薄く…





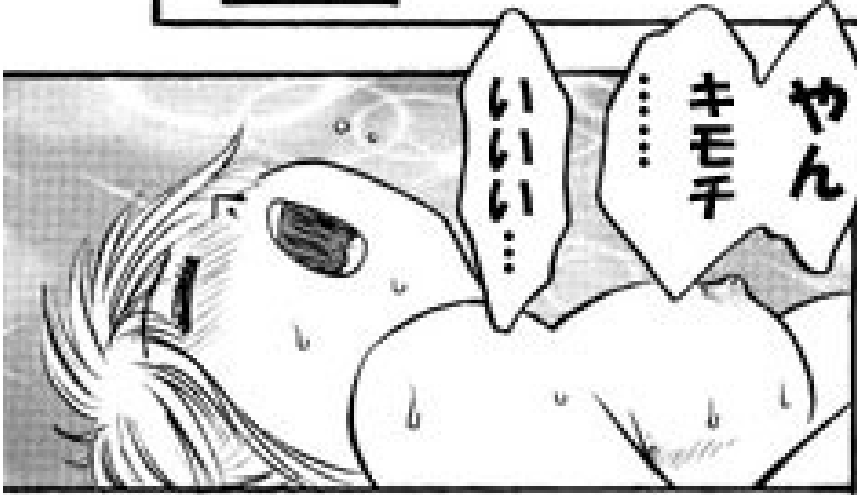
それはもう  
どうしようもない  
くらい

俺が一番弱い  
カラダだった



そして  
気が付くと  
俺は

舞に自分の身体を  
重ねていた



やん  
キモチ  
……  
いいい……



ああん  
ふっ……う  
ヒミチ  
んん……



んはっ……



な……  
なんだコレ

すげー  
キツイ!!







お願い…

今度は  
お尻に  
ちっくしたい



まだ終わりにし  
ないよなっ



もっと  
欲しいの…



かわいそうな山本に  
正しい女遊びを  
レクチャーして  
やること思う

罪ほろぼしの  
意味も含めて

山本の事を思うと  
普段の女遊びの  
10倍くらい  
罪悪感にみまわれた

舞との変態っぽい  
プレイはとて興奮し  
気持ち良かったが